

別紙様式 2

授業科目名	住宅論	大学名	宇都宮共和大学
科目区分	専門教育科目	開講時期	前期（4月5日～7月29日）
学部・学科等	シティライフ学部	曜日	水曜日
必修・選択区分	選択	時限（時間）	3限（13:00～14:30）
標準対象年次	2学年	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	宇都宮シティキャンパス
担当教員名	陣内雄次 教授		
電話番号（代表者名）	028-650-6611 （学務課 浮須 [ウキス]）	e-mail アドレス	
オフィスアワー	特に設けず、電話で予約を取ってから、質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p><授業概要></p> <p>本講義では、住まいが人々の日常生活の基盤であることに鑑み、住まいに関して多角的な視点を学ぶとともに、住文化の担い手となるための基礎的素養を得ることを目的とする。そのため、住まいの歴史の変遷、住まいの基本的機能、社会基盤としての住まいの重要性、住文化の形成過程、住教育の現状と課題、住宅政策の変遷および現状と課題、海外の住宅政策の変遷、環境と住まいの関係、まちづくりと住まいの関係など、住まいに関する基本的事項を幅広く学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <p>日々の生活の基盤である住まいの歴史の変遷、機能、社会的重要性、政策や制度の現状と課題などに関する基本的知識を習得するとともに、住文化の担い手として能動的に住まいについて考えることができるようになる。</p> <p><授業計画></p> <p>第1週 住まいとは何か、住まいの機能とは何かなど住まいの基礎について考える。 第2週 わが国の古代、中世における住まいと住生活について学ぶ。 第3週 わが国の近世、近代、現代における住まいと住生活について学ぶ。 第4週 家族のあり方と住まいとの関係について理解する。 第5週 少子高齢化と住まいの関係について考える。 第6週 環境共生の住環境とまちづくりについて考える。 第7週 住まいに関する学び（学校教育）の現状と課題について学ぶ。 第8週 住まいの設計デザインの基本について理解する。 第9週 戦後（1945年）～高度経済成長期（1960年代）におけるわが国の住宅政策について学ぶ。 第10週 高度経済成長期（1960年代）以降のわが国の住宅政策について学ぶ。 第11週 わが国の住宅政策の課題について考える。 第12週 アメリカの住宅政策について学ぶ。 第13週 イギリスの住宅政策について学ぶ。 第14週 フランスの住宅政策について学ぶ。 第15週 これまでの講義を振り返るとともに、自分自身の住まいについて考える。</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法></p> <p>教科書 特になし。 参考書 平山洋介『マイホームの彼方こ』(筑摩書房、2020年3月、2900円+税)</p> <p><成績評価法></p> <p>授業への取り組み・グループワークへの貢献度 20%、レポート課題の評価 30%、期末試験の成績 50%</p> <p><教員からのメッセージ></p> <p>1. 本授業は出席を重視する。2/3以上出席しない場合は、試験の受験資格をなくします。また、2/3以上出席したとしても、欠席や遅刻は減点となる場合があります。 2. 本授業では教員と受講生、受講生と受講生の双方向のコミュニケーションにより、一人ひとりが「能動的に考える」ことを重視します。このため、グループワークに積極的に参画し、一人ひとりが思考を深めることを期待します。 3. 授業中の、スマホなどの使用は厳禁です。使用が発覚した場合は、欠席扱いとします。授業で使用する際は、教員が指示します。</p>		